

※本コンテンツは弊社産業医療事業部が作成・提供しているお客様向けの情報発信ツールを抜粋したものです

### コロナ禍におけるがん検診受診率の低下

日本対がん協会では、新型コロナウイルス感染拡大の影響により受診者数が落ち込んでいるがん検診の状況を把握するため、5つのがん検診（肺、胃、大腸、乳、子宮頸）の受診者数を調査しました。

2021年がん検診受診者数は5,376,513件で、2020年と比較すると23.5%増となり受診率は回復しているように見えますが、**新型コロナウイルス流行前の2019年との比較では10.3%下回る結果で、コロナ禍の影響により、受診率の低下が続いていることがわかりました。**2019年と比べた減少数と、がん検診でのがん発見率をもとに、**がん発見の減少数を推測すると、5つのがん検診で計600件あまり減ったそうです。**

国立がん研究センターは、**2020年にがんと診断された登録数は前年より約6万件減少したと発表、集計を始めた2007年以降、登録数が減少するのは初めてでした。**

日本人の2人に1人はがんになると言われ、がん罹患率は男女ともに50歳代頃から増加します。日本対がん協会は、「科学的根拠に基づくがん検診の受診勧奨を強め、健診・通院を控える方々の受診につなげることが重要」との考えを示し、検診会場では、感染防止のため、換気や検査機器の消毒、職員の手洗い、マスク着用、検温を徹底し、時間帯別予約や受診者数制限の取り組みなどの工夫がされています。

保健師の業務の中で、「検診でがんが発見されて治療を開始しました」「早めに見つかって良かった」という社員様のお声を耳にすることが少なくありません。**早期発見・治療で救われる命が確実にあります。厚労省からも、がん検診などの必要な受診は不要不急の外出にあたらないことが提示されています。**

ご自身もしくは身近な方で、検診（健診）や通院を控えていらっしゃいましたら、ぜひ声を掛け合って受けていただけたらと願っております。